

令和2年度 第3回理事研修会 会長神谷挨拶

R2. 8. 31

会同いただいた理事の皆様、そしてWEBでご参加いただいている理事の皆様、本日は2学期早々の大変お忙しい中、第3回理事研修会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

第3回の理事研修会ではありますが、第1回と第2回はコロナウイルス感染拡大防止のために、書面会議で行った関係で、こうして一堂に集まって会議を行うのは、今回が初めてとなります。今までであれば、顔と顔を合わせての行う会議が当たり前とっていましたが、これだけの人数が、久しぶりにこうして直接会って行う会議は実に新鮮な感じがしております。

本来、第3回の理事研修会は、例年「教育研究大会」の前日に開催地で行われ、今年度は9月10日に北見市で予定しておりました。しかし、今年度の教育研究オホーツク・北見大会を誌上交流としたため、日程を変更し、この会議も札幌で行うことといたしました。誌上交流とした「教育研究大会」の研究紀要がまもなく全道の校長先生のお手元に届くことになると思います。ぜひ、忌憚のないご意見を積極的に研修部担当者に送っていただき、充実した誌上交流になるようご協力をよろしくお願いいたします。頂いたご意見は、12月に完成する研究集録に反映されます。

学校では短い夏休みが終わり、2学期に入りました。新型コロナウイルスの影響で、まだまだはっきりと先が見通せない状況には変わりありませんが、こうした中で、私たちは今の状況の中で確実にしなくてはならないこと、そして WITH コロナや POST コロナをイメージしながら、今まで積み上げてきたことに工夫を加えて対応すること、さらに発想の転換をして新たな考えに立って取り組みを進めることなどを整理をして、今後の学校経営にあたっていくことが重要になってくるのではないかと思います。全道の校長会の横のつながりを大切にして、この状況を乗り越えていくべきと考えます。

本日は、この後、北海道教育委員会学校教育局長 小松智子様をはじめ、川端義務教育課長、担当の課長補佐の皆様など、行政説明のために、道教委から多くの方に来ていただき、最新の情報も数多くお聞きする予定になっております。

短い時間ではありますが、貴重な内容がたくさん詰まった本日の理事研修会、どうぞよろしく願いいたします。

それではまず、お手元の資料をご用意ください。先日新聞等で報道された「高学年の教科担任制」に関わって、文部科学省 HP 資料を使って説明いたします。

資料1は、8月20日に開催された「中央教育審議会初等中等教育

分科会「新しい時代の初等中等教育の在り方特別部会第12回」の会議資料です。この資料の20ページには「9年間を見通した新時代の義務教育の在り方について」の基本的な考え方やねらい、具体的な方向性について書かれており、特に22ページの(3)の①小学校高学年からの教科担任制の導入は、私たち現場にとって直接関係する大きな問題となります。小学校高学年における教科担任制の導入の意図は、心身の発達や抽象的な思考力が高まるといった発達段階を考慮し、また学習が高度化するこの時期の系統的な指導によって、円滑な中学校への接続を図る必要性があることなどです。

また、GIGAスクール構想による「一人1台端末」環境下でICTの効率的な活用と相まって、一人一人の学習状況に応じて、教科指導の専門性を持った教師によるきめ細やかな指導が可能となる点、さらに、教科担任制の導入によって、教育活動の充実と教師の負担軽減につながる点なども、その理由として述べられております。

こうしたことを踏まえ、2022年(令和4年)を目途に本格導入を行うという、提案がなされたということです。グローバル化、STEAM教育の充実・強化といった社会的要請の高まりから、その教科に関しては、外国語・理科・算数を対象とすることが考えられるとあります。

39ページの資料5に、今後の審議スケジュールが載っておりますが、来年1月には答申が出される予定です。義務教育9年間を見通

した視点からの改革となりますが、先ほどの教科が果たして相応しいのか、また専門性を持った人材の確保といった教員定数の問題など、検討が必要な事項がまだまだあるようです。

全連小からは喜名会長がこの会議のメンバーとなっており、算数を教科担任制の教科にすることには以前懐疑的な発言をされてきました。子どもたちの学びにとって最もよい方法、現場が納得できる方向に向けて、これからも我々の現場の声をたくさん伝えていただきたいと思っております。全連小の常任理事会などの際には、私からもお話しさせていただきたいと考えております。

資料28ページ、6の(2)の④「デジタル教科書・教材の普及促進」をご覧ください。資料2にも付けましたが、今後の方向性として、デジタル教科書・教材を普及・促進していくことに完全にシフトしていることが分かります。一時は、あくまでも紙の教科書を主体にという方向性が示されていた時期もありましたが、コロナ禍における社会状況の変化や今後のGIGAスクール構想に基づくICT機器の普及、また大量の教科書を持ち歩くことのデメリットなどにより、デジタル教科書普及に向けての話し合いが進んでいくと思われれます。今後は、個別最適化された学びの実現に向けて、デジタル教科書をどのように活用していくのかが焦点になりそうです。

35ページには、「ICTの活用や対面指導と遠隔・オンライン教育と

のハイブリット化による指導の実現に向けた教室の在り方」という資料を用意しました。一人1台の端末の実現に伴い環境の整備が必要になります。感染症対策を行いながら、サイズが大きい新 JIS 企画の机と、充電保管庫といった ICT の関連機器などを教室にどのように配置していったらよいのか、そもそも今の教室の大きさは現状に合っているのかなど、今後新たな環境整備を検討していくことになります。30ページにもその内容が書かれていますのでご覧ください。

最後に、先日発出されました萩生田文部科学大臣による新学期のスタートに向けたメッセージです。感染しないための最大限の努力はもちろんですが、感染した人たちへの心配りや差別を生まないなどの心の教育などは、我々現場の校長の役割と強く認識して職務にあたりたいと思います。

以上、文部科学省資料を基にお話しさせていただきました。

本日の理事研修会、どうぞよろしくお願いたします。